

# 浦安アートプロジェクト「浦安藝大」

浦安藝大は、浦安市と東京藝術大学が連携し、市民とともにアートによって新たな価値の創出やまちの魅力の向上、地域や社会の課題解決のきっかけづくりをしていくプロジェクトです。社会経済情勢の変化や市の発展過程で生じてきた課題に、行政や市民等がアートを通じて現状と課題を認識し、連携・協力して取り組むことにより、課題解決につなげていくことを目的とし、まちづくりの様々な分野にアートからアプローチする取組です。

令和4年度よりキックオフイベントや市民参加型ワークショップなどを実践してきました。令和5年度は、高齢化や防災、潜在する地域課題に新しいアプローチを行うプログラム、多様な価値観を認め共生できる社会を推進する海外交流プログラム、まちなかでの展示、シンポジウムなどを行いました。

これまでの取組と今後の実施予定のプログラムについて紹介します。

## プログラム 1 顕在課題研究「高齢化と孤立」 拡張するファッション演習



### 参加アーティスト

西尾美也氏 (美術家、東京藝術大学准教授)

林央子氏 (著述家、編集者)

人間にとって生きるために必要な衣食住のうち「ファッション」を切り口として、本市の地域課題である「高齢化と孤立」にアプローチするプログラムです。

「ファッション」を多くの世代がつながりを持つことができるひとつの手段として、対象を高齢者のみに限定せず、広い世代の市民と、ファッションに関する専門家が広い視野を持ちながら取り組んでいます。今年度は、8月から11月にかけてレクチャーやワークショップ等を4回実施しました。



浦安藝大公式HP



## プログラム 2 顕在課題研究「水害と防災」 ミチニワと観測所

### 参加アーティスト

樫村英実氏 (建築家、東京藝術大学准教授)

樫村研究室

浦安の地域課題である「水害と防災」へのアプローチとして、自然現象を身体で感じることでできる「観測所」を明海の丘公園に展示しました。

かつて浦安で漁業が盛んに行われていた頃は、海の状況や天気、風向き、陽の光などを観測することは、日常であり、生きるために必要なことでした。

「観測所」は、現在見えにくい、触れることが少なくなった自然を、身体で感じてもらうとともに、自然を通して交流できる場にもなりました。今年度は、10月から11月にかけてワークショップを3回実施しました。



うらやすスタイル 51号

## プログラム 3

### 潜在課題研究「風の子」



#### 参加アーティスト

五十嵐靖晃氏(アーティスト)

浦安に吹く「風」は、埋め立て前の昔から変わらないものです。

目には見えない風を可視化するため、市内の小学生を対象に吹き流し「風の子」を作るワークショップを実施し、「風の子」と日常や遊ぶ時間をともに過ごすことで風を体験しました。

その後、子どもたちが制作した「風の子」を持って総合公園に集合し設置され、一つにつなげて大きな作品となりました。

今年度は、8月から10月にかけてワークショップ等を13回実施しました。



## プログラム 4

### 潜在課題研究「浦浦 (UraUra)」

#### 参加アーティスト

KITA(アート・コレクティブ)

「浦」とは入り江や海岸、またその付近の共同体を指します。

浦安には、かつて「浦」だった場所がいくつもありました。過去の海と陸の境界線は、現在も街に残る堤防跡から想像できます。

本プログラムでは、隔たりを渡りながら生きる渡り鳥たちのように、元あった／今もある海と陸の境界線を巡り、かつての海岸を見渡すことができた場所(現在の浦安公園)に、展示やワークショップを通して、かつてあった「浦」の時間をつくりだしました。

8月には、「あたらしいあそび」をつくるワークショップを、10月には、三番瀬環境観察館で渡り鳥をつくり、浦について考えるワークショップを実施しました。



## プログラム 5

### 海外交流プログラム URAYASU×ARGENTINE×TURN



#### 参加アーティスト

マックス・ゴメス・カンレ氏(アーティスト)

「食」や「食文化」を通じた交流により多様な価値観を認め合い、誰もが共生できる社会の推進を目的とするプログラムです。

アルゼンチンのアーティスト(マックス・ゴメス・カンレ氏)が浦安市に滞在し、公募により選出された市民との交流やリサーチを通して、10月14日と22日にワークショップを実施しました。

11月18日と12月13日には、アルゼンチンにて、アーティストと公募市民が、現地の地域コミュニティとの交流やリサーチを通して、浦安の食文化を交えたワークショップや展示等を実施しました。





## プログラム 6 まちなか展示・トークイベント

高齢化や防災等をテーマに、参加作家がリサーチやフィールドワークを重ね、ワークショップ等を行った成果の発表として、10月20日～11月5日の期間、市内各所でまちなか展示を行いました。

また、10月21日・22日には、参加アーティストを中心に今年度の実践を紹介するとともに、地域課題に対して新たな視点でアプローチするアートプロジェクトや今後の展開について語り合うトークイベントを開催しました。

### ●展示会場

明海の丘公園・浦安公園・総合公園・旧大塚家住宅・旧宇田川家住宅、入船地区の理髪店や美容院



## プログラム 7 「ポンプ場」から浦安の未来を創造してみよう

## プログラム 8 発見プロジェクト ドキュメンタリー映像作品上映会

### プログラム7

浦安の水害の歴史や、排水機場・ポンプ場の役割を学び、学んだことや気づいたことをポンプ場でアートによって表現することで、日常の風景を改めて見返し、防災について考えるワークショップを1月20日に実施しました。



### プログラム8

東京藝術大学の学生たちが、「うらやす、あきない」をテーマに市内の商店取材し、インタビュー・撮影を行い、ドキュメンタリー映像作品を制作します。2月10日に市民プラザでトーク付き上映会を行う予定です。詳しくは、広報うらやすや専用ウェブサイトをご覧ください。

